

薬剤師だから知っている。3分間の薬と健康の裏情報

282号 子宮頸がんワクチン。接種すべきか？

3回シリーズの1回目



漢方の健康堂薬局の店主 長澤昭と申します。

3月11日（金）に発生した東北地方太平洋沖地震により、被災された皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。

282号からは、「子宮頸がんワクチン。接種すべきか？」と題して3回シリーズでお伝えいたします。

282号の発行が、一週間遅れてしまいましたことをお詫び申し上げます。

282号 3回シリーズの1回目（3月21日発行）
1. 子宮頸がんワクチンをめぐる直近の動き

短編（科学のよもやま話）第199号（3月28日発行）
ワクチンとは

283号 3回シリーズの2回目（4月4日発行）
2. 子宮頸がんとパピローマウイルス

短編（科学のよもやま話）第200号（4月11日発行）

284号 ○回シリーズの3回目（4月18日発行）
3. 対象となる年齢の女の子を持つ親御さんへ



282号 子宮頸がんワクチン。接種すべきか？

1. 子宮頸がんワクチンをめぐる直近の動き

1. 子宮頸がんワクチンをめぐる直近の動き

(1) 新聞報道より

◎毎日新聞 地方版 (2013年12月12日)

○記事のタイトル

子宮頸がんワクチン:接種後、46%体調変化。鎌倉市調査

○記事の内容

鎌倉市は11日、子宮頸(けい)がん予防ワクチンを接種した人について、その後の体調変化に関する独自調査の結果を公表した。それによると、体調に何らかの変化があった人は回答者の46%にあたる818人で、現在も体調不良が続いている人が11人いた。調査は2010年9月～今年8月、任意接種か定期接種した当時小学6年～高校1年の女性3060人を対象にアンケート用紙を郵送して行った。11月22日までに1795人が回答を寄せた。

体調の変化で最も多かったのが、接種部位の痛みやかゆみで659人。部位のはれや赤みが493人で続き、だるさ・疲労感・脱力感を訴えた人は162人だった。より重い症状の失神は6人、手足の痛みは48人に上った。(複数回答あり)

症状は「その日になくなったか・その後なくなった」が

787人で、20人は未記入。症状の継続期間は1週間以内が659人、1週間～1カ月が45人などだったが、6カ月の人も1人いた。

市は「ワクチンと体調不良の因果関係は確認できなかった。症状が継続している人には情報提供するとともに、心配がある人の相談にも乗りたい」としている。【松永東久】

◎東京新聞 TOKYO Web（2014年2月26日 朝刊）

○記事のタイトル

子宮頸がんワクチン中止訴え、都内で国際シンポ 「アルミが副作用原因」 専門家指摘

○記事の内容

多くの副作用が報告されている子宮頸（けい）がんワクチンについて、国内外の医学者らが二十五日、東京都内で国際シンポジウムを開き、接種の中止を訴えた。厚生労働省の有識者専門部会は一月、副作用は注射の痛みへの患者の不安が引き起こす「心身の反応」が原因と結論付けたが、医学者らは、ワクチンの効果を高めるために含まれる特殊なアルミニウムが引き起こしていると指摘した。

パリ大のフランソワ・オーシェ教授（神経筋肉病理学）は、ワクチンを注射すると筋肉内で白血球の一種の「マクロファージ」が過剰に集まり、アルミニウムを取り込んで分解できない

まま全身へ広がって炎症を起こすとし、一部は脳にたまり、神経や認知の障害の原因になると説明した。

シン・ハン・リー米エール大元准教授（病理学）は、子宮頸がんを引き起こすウイルスのDNAがアルミニウムに吸着し、人体に激しい自己免疫疾患を引き起こすとの見解を示した。

ワクチン接種後に急死した三人の少女の脳を調べたカナダのブリティッシュ・コロンビア大学のルチジャ・トムルジェノビック研究助手は、シンポジウム後の会見で「これほど激烈な副作用が世界中で起きているのが現実。すべての国で接種を即刻中止するべきだ」と話した。

厚生労働省は二十六日午後、専門部会を開き、現在中止している接種勧奨を再開するか検討する。同日午前、シンポジウムに参加した医学者も呼んで意見を聞く場を設けるが、専門部会の議論に反映させるかは分からないとしている。

◎朝日新聞 DIGITAL（2014年2月27日）

○記事のタイトル

子宮頸がんワクチン、検討会が注意点 痛みの可能性説明

○記事の内容

子宮頸（けい）がんワクチンの接種後に長期的な痛みを訴える人が相次ぎ、国が接種の推奨を中止している問題で厚生労働

省の検討会は26日、接種時の注意点をまとめた。強い痛みが起こる可能性やワクチンの有効性を事前に説明。かかりつけ医などなじみのある医療機関で接種し、強い痛みが出て生活に支障が出た場合は次回以降の接種は控えるよう勧める。

検討会は1月、症状の多くは、接種による痛みや腫れが心身の反応を引き起こし、慢性化したとの見解をまとめた。この日は、子どもの心身反応の専門家が出席。予想より強い痛みが不安を増幅し、症状が慢性化する可能性を指摘した。これらの見解や注意点を踏まえ、次回以降に推奨再開の是非を議論する。

検討会前に開かれた海外研究者との意見交換会では、心身の反応でなくワクチン成分が原因との意見も出た。しかし、検討会の委員らからは否定的な意見が相次いだ。

(2) 問題となっている副作用について

一年間に2700人ほどの女性が命を落としているといわれている子宮頸がん。そのがんを予防できる夢のワクチンとして注目されていた子宮頸がんワクチン。そのワクチン接種により、深刻な健康被害が起きているとして、「ワクチン被害者連絡会」は、24の症例を国に報告し接種の中止を求めました。

日本人の子宮頸がんの50～60%は、その原因となっているのがHPVピローマウイルスです。そのウイルスに感染する前にワクチンを接種するとでがんになるのを防ごうというものです。コルスに感染する

原因は性行為です。そこで、そうした経験をするようになる前の年代と
いうことで、小学6年から高校1年までの女の子を対象に、多くの自治
体で、無料で接種が行われています。2013年4月から法律に基づく定期
接種となり、恒久的に公費で接種を受けられる体制が整ったばかりでし
た。

厚生労働省の検討部会は、以下のような判断をし、今の段階では、
慢性疼痛についての的確な情報を提供できないとして、接種する選択肢を
残しつつ、積極的な呼び掛けを一時中止すること結論を出しました。

◎ワクチンを接種した直後から症状が出ているケースが少なくない
ので、ワクチンとの因果関係を否定できない。しかし、今の段階
では報告数は限られていて、ワクチンに重大な危険性があるとは
いえない。したがって、接種そのものを中止するという判断はし
ない。

◎しかし、慢性疼痛の発生頻度や症状が続く期間など、わからない
ことが多く、海外の状況も含めて調査を徹底する。

◎そして、ワクチンと慢性疼痛の因果関係を究明し、治療を受けら
れる体制を整備する。

以上、今週の内容でした。

—[プロフィール]—
—[プロフィール]—

■長澤 昭（ながさわ あきら）1952年 静岡県生まれ

1980年に薬局を創業。

2000年、毎日新聞「アミューズ」に、「漢方薬に詳しい薬局」として、全国わずか35店のうちの1店として取り上げられる。

2001年、約300の病名・症状別の「病気別漢方選薬システム」を完成させる。

現在は、当店HPにて公開中

□登録／解除の方法

↓ ↓ ↓

<http://kenkodo.web.infoseek.co.jp/melmaga.html>

(E-Magazine からご購入の方はこのメルマガの一番下に解除フォーム有り)

□注意・免責事項

◎一般の方向けの内容なので、厳密な医学用語は使用していません。医学的な専門性から考えた場合、妥当でない表現があると思いますが、なるべく平易な表現を使用するようにしてあります。

◎個別の健康相談を行うものではありません。

◎体の状態は個人によって異なっています。現在治療中の方はかかりつけの主治医と相談をしてください。

◎ご自分の責任の範囲でご利用ください。記載内容を利用し生じた結果について、当方では責任がとれませんのでご了承ください。

=====

薬剤師だから知っている。3分間の薬と健康の裏情報

発行者：漢方の健康堂薬局

発行責任者：長澤昭

<http://www3.ocn.ne.jp/~kenkodo/>

E-mail: <mailto:kenkodo@oregano.ocn.ne.jp>

「薬剤師だから知っている。3分間の薬と健康の裏情報」の本文は、著作権により保護されています。

ただ、個人的にお友達に転送することは自由です。その場合、このメルマガの一部だけを転送するのではなくて、全文を転送していただけると、うれしいです。よろしければ、お知り合いの知人、友人に教えてあげてくださいね（商用の場合を除く）。

転載の場合はご一報ください。
